

株式会社上組 2023年3月期 決算説明会における  
主な質疑応答（要旨）

Q 1：風力発電市場への取組強化について、案件受注に向け実施した設備投資や、収益への貢献見通しを教えてください。

A 1：案件受注に向け実施した設備投資として、重量物輸送車両（キングキャリア、約10億円）を発注した。発電設備の設置やマーシャリング業務に獲得余地があり、積極的な投資を実施してまいりたい。

Q 2：投資計画について、成長投資は計画通り進捗する見通しか。

A 2：お示した最終年度までの計画数値は、年度ごとの計画案件の積み上げによるものであり、確度の高いものであると認識している。計画に沿って着実に実施してまいりたい。

Q 3：PBR 1倍割れへの対応策について、社内でのどのような検討がなされているか。

A 3：経営上の課題であると、強く認識している。主な対応策は、「ROEの一層の改善」、「成長ストーリーの構築」、「ESGへの対応強化」の3つとみている。「ROE」は、「今中計内で6.5%、中期的には7%台を目指す」と公表済ながら、より高い水準に向かって努力していく必要性を感じている。「成長ストーリー」は、「長期的な目標」や「あるべき姿」を掲げて、投資家の皆様と生産的な対話ができる形にしたい。次期中期経営計画では、長期目標に向けた骨太の経営戦略を策定してまいりたい。「ESG」は、本年4月からESG推進室を立ち上げ、既に本社で横断的に垂直的に着手している。当社のESG対応は、相対的に出遅れ感が否めないと真摯に受け止めている。持続的・長期的な企業成長に向けて、非財務情報についても社会の要請にしっかりと応えてまいりたい。

Q 4 : ROE 目標について、7%が現時点での最終目標か、それとも長期的にはより上を目指しているのか。

A 4 : 7%は最終目標ではない。長期的には更に上を目指す、という姿勢である。当社の収支変動や株価変動の実績を踏まえれば、想定株主資本コストは必ずしも株式市場全般に準じる必要はないと考える。しかしながら、一般論として、資本市場には ROE8%以上の期待があると受け止めている。ROE については、現行目標値 (25/3 期末 6.5%) の公表の段階で、当社は 5%台にとどまっていた。着実に前進していきたいとの思いから、実現可能性に重きを置いた目標値を掲げた経緯がある。但し、あくまでも通過点とご理解いただきたい。

Q 5 : 当期の営業利益について、「外注比率の減少」は、意図して低下させたものか、自然体で低下したものか？

A 5 : 新倉庫の建設により、自営作業の増加や借庫比率の減少が寄与したものとする。

Q 6 : 政策保有株式 (の保有目安や縮減計画) について、具体的に目標値などは？

A 6 : 保有する「政策保有株式」については、常に見直しが必要であると認識しているが、投資家の皆様から改めて、強い関心が示されたものと受け止めた。政策保有株式については、まずは、保有継続あるいは縮減に係る社内基準を定めることから始まると認識している。その上で、その基準に即した対応を、時間軸を持って着実に遂行していくことが大切と考えている。我々は既に、政策保有株式は保有しているだけでも、資本コストがかかっていることを認識している。保有銘柄については、資本コストに見合う取引関係にあるのか、保有を通じた取引深耕が期待できるのか、といった点での検証を踏まえた上で、取引先のご理解を得ながら着実に進めていくことが重要だと考えている。